プラン・ニュース［2017 Spring］NO.104

PLAN NEWS

キーパーソンに聞く

経済学者、東京大学東洋文化研究所教授

安富 歩さん

途上国の現状を知ることで見えてくる日本の抱える問題



プランのコミュニティ開発

タンザニア ダルエスサラーム活動地域からの報告

各プロジェクトの進捗をリポート

プランが世界各地で取り組むプロジェクト

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

キーパーソンに聞く

安冨歩さん

●経済学者、東京大学東洋文化研究所教授

途上国の女の子の現状を知ることは、日本が抱える差別への気づきとつながる

〝立場主義〟が日本を不幸にし、そして弱いものへの差別や暴力を生み出す…。〝男装をやめた東大教授〟として知られる東京大学の安冨歩教授が、途上国の女の子、そして日本人が本当の人生を実現するために進むべき道を語りました。

――日本の女の子や女性差別の背景には〝立場主義〟があるとおっしゃっています。〝立場主義〟について詳しく教えてください。

安冨歩さん（以下敬称略）　何にも増して立場を重視するという、日本独特の社会のあり方のことです。一人ひとりに立場に相応した「役」が課されていて、その役を果たすために生きている。その根本になるのが、男女の区別です。生まれたら男と女とに区別・差別され、それに応じて振る舞う「しつけ」を受けます。これによって立場に応じた役を演じる「立場主義者」を養成し、日本社会は秩序を保っているのです。立場主義では、自分の命よりも立場を失うことを恐れるくらいです。もちろん同じことは、どこの国でもあるはずですが、それを「立場」という形で概念化しているのが日本ならではの特徴だと言えます。

――その立場主義が、どう差別に結びつくのでしょう？

安冨　立場主義のシステムは人を果てしなく抑圧し、そこから生じるストレスが暴力となり、差別といった害悪を引き起こすんです。暴力は女性や子どもなど、弱いものに向かって吐き出されます。そして、日本が深刻なのは、その暴力や差別が隠蔽されていること。たとえば、職場を見れば、法律のどこを見ても「女性を管理職にしてはいけない」とは書いてないのですが、管理職はいまだに男性だらけ。男性でなければ認められない構造になっていて、でもその理由がわからない。だからどこを直していいのかもわからず、非常に深刻な状況なわけです。

――途上国には女の子だけが学校に行けないなどあからさまな差別が見られる一方で、日本の差別は可視化しにくいということですね。

安冨　はい。そのことを考えると、実はサポートを受けるべきは日本ではないかとさえ思いますし、プラン・インターナショナルの方には支援を通してさらに日本社会の問題に目を向けていただきたいです。

――支援することと日本にある差別に気づくことがつながっているともおっしゃっていました。具体的に教えてください。

安冨　プランのようなNGOにかかわると、途上国の女の子に対する露骨な暴力を凝視する機会があります。それを通して、自らが受けている差別が可視化されることがあると思うんです。たとえば、男の子にからかわれるから生理中に学校に行けない途上国の女の子の現状を知る。それは、出産育児中に職場に行けない日本の女性の現状と、なんら変わりません。「産む」という偉大な能力をもつがゆえに、女性が劣ったものと見なされるという不条理が同じなのです。そしてそこから、なぜ男女の収入格差がこんなに開いたままなのか、女性政治家や女性管理職の数は少ないままなのか、という問題が顕在化します。支援は、そういう気づきの場でもあると考えます。

――立場主義でがんじがらめになってしまっている日本人は、状況を変えるために何から始めればいいのでしょうか？

安冨　まず、本気で恋をしてみたらいかがでしょう（笑）。プランに「13歳で結婚。14歳で出産。恋は、まだ知らない。」という、インドの女の子の現状を伝えるコピーがありますよね。これを「33歳で結婚。34歳で出産。恋は、まだ知らない。」にすると、実は当てはまるという日本女性は多いのでは？　〝立場上〟結婚してしまうのでは、立場は幸せになっても人間として幸福を感じることは難しい。とらわれているものを打ち払って、本当の人生を実現していく意志をもつのが大事なのではないかと思います。

――本気で恋をすれば社会を変えられる。面白いですね。

安冨　社会は〝変える〟ものではなく〝変わる〟ものです。私たちが人間として幸福を感じることは難しい。とらわれているものを打ち払って、本当の人生を実現していく意志をもつのが大事なのではないかと思います。

前述の話に戻ると、貧しくて生理用品が買えないから学校をやめるという女の子ばかりだと、社会は変わらない。でも、生理用品がなくても学校に行って、制服が汚れたとしても勉強している女の子が現れたら、社会は変わるかもしれない。日本も、出産してもキャリアを積む女性が増えたら、社会は変わるかもしれない。現状を受け入れるばかりではなく、現状を拒否する姿勢が大切だと思います。



「国際ガールズ・デー」のイベントでは、日本のジェンダー・ギャップ指数が101位（2015年）であることにも触れ、日本の女性や女の子が見えない暴力を受けていることを指摘しました



Profile

やすとみ・あゆみ　1963年生まれ。京都大学大学院で経済学の博士号を取得。名古屋大学情報文化学部の助教授などを経て、2009年に東京大学東洋文化研究所の教授に着任。2013年より男性という性自認に疑問を抱き、女性装で過ごしている。

「国際ガールズ・デー」のイベントで安冨先生が講演！



国際ガールズ・デーを前に、昨年10月9日に行われたイベント「Go, Learn, Change！　未来を変えるガールズ・パワー ～ルワンダの女の子たちを迎えて～」に、安冨先生も参加。ルワンダのプラン職員でジェンダー専門家のグレースと、同じくルワンダから来日した女子中学生のフランソワーズとレベッカがジェンダー平等について話すのに続き、講演しました。男女差別を本質的になくすには、その根幹である立場主義にとらわれず、「ありのまま」にふるまうことが必要だと主張し、参加者から支持を受けていました。

撮影：田村浩章 ／プラン・インターナショナル

女の子の健康、教育、自立……人権の侵害につながる「早すぎる結婚」

Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンでたびたびお伝えしている「早すぎる結婚」の問題。女の子の権利をさまざまな形ではく奪しているこの問題の原因と背景、解決策を解説します。

途上国で18歳までに結婚した人の割合

3人に1人

2010年時点で20～24歳の女性のうち18歳までに結婚した人の割合
出典：Marrying Too Young, UNFPA 2012

1日に約5,500人

15歳未満で出産をする女の子の推定人数

毎年途上国で18歳未満で出産する730万人のうち、15歳未満の出産は200万人を占める。毎日約5,500人の女の子が出産をしている計算

出典：Motherhood in Childhood Facing the challenge of adolescent pregnancy, UNFPA state of world population 2013

「早すぎる結婚」は貧困と教育の不足から

プラン・ニュースの読者は、「早すぎる結婚」という言葉をご存じでしょう。けれども、18歳までに結婚する女の子が、途上国で「3人に1人」と聞くと驚かれるかもしれません。

国際人権法や多くの国の法律で禁止されているにもかかわらず、早すぎる結婚は世界中の何百万人という女の子から人権を奪い続けています。教育の中断を余儀なくされ、早すぎる妊娠・出産によって死のリスクにさらされ、ときには暴力や虐待の対象になり、経済的に自立することもできません。

UNFPAの調査（※）では、教育を受けていない女の子が18歳までに結婚する確率は、中等教育以上を受けた女の子よりも3倍高いことがわかりました。また、教育を受けていない若い親から産まれた女の子は、早すぎる結婚をして貧困の負の連鎖に陥る可能性が高いこともわかっています。

この負の連鎖を断ち切るため、プランのBIAAGキャンペーンは、女の子が質の高い教育を受けられることを目標にしています。安全な環境で勉強することで、女の子は技能や知識を身につけ、自らの権利を主張するための自信を持つことができます。より多くの人生の選択肢を得て、コミュニティで積極的に活躍することにつながるのです。

「早すぎる結婚」を防ぐカギは、教育

この深刻な状況に取り組む緊急性については、国際的な合意が形成されつつあり、結婚の時期を遅らせるカギが教育であることも明らかになってきています。

各国政府に取り組みを働きかける

2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標」（以下SDGs）は、全世界が取り組む目標です。早すぎる結婚の防止は、17ある目標の5番目「ジェンダーの平等」の主なターゲットのひとつです。

プランは活動地域の人々と協力して、早すぎる結婚の問題に長年取り組んできました。政府へ結婚年齢を引き上げるよう法改正を訴える活動もそのひとつ。徐々に変化が現れ、女の子が結婚できる年齢を18歳以上にする法改正が進んでいます。プランは18歳未満の結婚がすべて違法となるよう法の整備を各国に働きかけていきます。

※ UNFPA、「Marrying Too Young: End Child Marriage（早すぎる結婚：子どもの結婚をやめさせる）」ニューヨーク、2012年



メモリーさん（20歳）
マラウィの青年活動家グループのメンバー

わたしの妹はたった11歳で妊娠した

「マラウィでは、両親が幼いうちに子どもを結婚させることは普通のことでした。妹は強制的に結婚させられ、11歳で妊娠。通常分娩には耐えられず、帝王切開で出産しました。自由になるお金は一銭もなく、家族からは虐待を受けました。妹のような目にあう女の子を出したくなくて、プラン・インターナショナルの活動に参加し、妹の経験を公表しました」。メモリーさんたちの活動により、2017年2月14日の議会で、18歳未満の結婚は完全に憲法違反となりました。

Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンで実施されるプロジェクトの報告です

男の子も女の子も地域の大人たちも、変わり始めています

2016年の7月からスタートした3つのプロジェクトが着々と進行中。地域が一体となって、女の子を取り巻く問題に向き合っています。



対象村で行ったプロジェクト説明会には多くの人たちが参加し、会場はお祭りのようににぎやかでした

村落貯蓄組合や起業支援の準備がスタート

From トーゴ

「若年層の女性の経済的自立プロジェクト」

プロジェクト開始にあたっての説明会には、ブリッタ県の行政官をはじめ、多くの住民が参加しました。その後、対象の若年層向けに、村落貯蓄組合の利点や、方法、仕組みなどについての説明会を各村で実施。男女合計 2,000 人以上が参加するなど、関心の高さがうかがえました。現在、20 人から 25 人で構成する村落貯蓄組合グループの設立が始まっています。

一方、この活動の指導的役割を担う職員や地域の人々で構成される、プロジェクトの実行委員会に対してもトレーニングを実施しました。職員たちが、新たな知見を取り入れながら、よりよい活動をあと押しできるように、会計士などの専門家もトレーナーに迎えました。



村落貯蓄組合の集会に参加する
マジャンバさん

参加者の声

マジャンバさん（20歳の女性）

「私はこのプロジェクトで、初めて村落貯蓄組合の活動に参加しました。トレーニングでは、初めてほかの人の前で自分の意見を話すという経験をしました。経済的にも、夫に頼りすぎてはならないと感じています。なぜなら 2 人の幼い子どもがいるし、夫が 2 番目の妻を迎える可能性があるからです *」

* 一夫多妻制：2010 年の調査ではトーゴの 15 ～ 49 歳の女性の 3 割がこの結婚形態にあるとされています。出典 unicef/MICS_2010_Togo

“ボーイズ・フォー・チェンジ：変革のためのリーダーシップクラブ”の活動が始まっています

From ルワンダ

「差別をなくすジェンダー教育プロジェクト」

ルワンダ南部にある 3 つの中学校で、“ボーイズ・フォー・チェンジクラブ” が結成されました。「ぜひ参加したい！」という女の子と男の子60人が 3 つの小グループにわかれ、それぞれのリーダーを決めて活動をしています。3校で合計180人が、清掃などクラブ活動を始めています。

以前は、「掃除は女の子がするもの」という社会の慣習から清掃活動に参加しない男子生徒もいました。女の子も男の子も一緒に協力しながら掃除に取り組むことで、今までの慣習や思い込みを変えようとしています。また、ジェンダーに基づく差別や暴力の問題、性と生殖に関する健康についてのトレーニングや、大人になって社会に出て行くための金融教育や相互扶助を目的とした貯蓄貸付グループの立ち上げなど、さまざまな活動を通して多くの問題に気づき、解決策を学んでいます。メンバーたちは活動で学んだことを同級生や、自分たちの家族、そして地域の人々にも伝えていく予定です。





参加者の声

エリックさん（カマナ中学校の2年生男子）

「トレーニングを受けて、僕が育った地域は女性が大切にされていないと気づきました。女の子を大切にする学校は、女の子に自信をもたせることができるし、そんな学校は男の子にとってもよい学校になると思います」

レベッカとフランソワーズも活動中！

2016年の国際ガールズ・デーに来日した2人の女の子も“ボーイズ・フォー・チェンジ：変革のためのリーダーシップクラブ”で活躍しています！

日本からの帰国直後には、「農山漁村女性のための国際デー」のイベントで、ジェンダー・家族促進大臣とともに大統領夫人と面会。日本での国際ガールズ・デーの活動の報告をしました。ボーイズ・フォー・チェンジの活動にも元気に参加しています。



ルワンダ大統領夫人（右端）に活動を報告するレベッカとフランソワーズ（左から順に）



貯蓄貸付グループに関するトレーニングに参加するレベッカ



清掃活動に参加するフランソワーズ

Girl's Project 継続支援はこちらからお申し込みいただけます　http://www.plan-international.jp/join/girl/



一時保護施設で5年間責任者として働いているラクシミさん

参加者の声

ラクシミさん（保護施設職員）

「一時保護施設で、過去 5 年間働き、被害女性の世話をしてきました。施設はとても狭く、老朽化もすすみ、個室やプライバシーに配慮したトイレもありません。プロジェクトで新しい建物ができるので、とても感謝しています」

暴力の被害にあった女性たちが安心して暮らせる保護施設を

From ネパール

「女性への暴力撲滅・保護プロジェクト」

プロジェクト開始にあたり、行政をはじめとした関係団体へ協力を求める会議を開催。女性への暴力反対キャンペーンの主導的役割を担うレヌ・アドヒカリ医師が、プロジェクトの意義について説明し、参加者への協力を求めました。

また、女性人権擁護ボランティアによる、ジェンダーに関するトレーニングも実施。女性を中心に120人が参加し、ジェンダーに基づく暴力の事例や支援機関について学びました。参加者たちは、地域の 5 人の女性と女の子たちに支援が必要と女性人権擁護ボランティアに報告。5 人は一時保護施設に預けられました。5 人のうち 3 人は 18 歳未満で、1 人は家庭内暴力、4 人はレイプの被害者でした。

ダリット * の女性グループへのトレーニングの様子



* ダリット：カースト制度に由来し、「不可触である」とされている最も地位の低い人々

～タンザニア・ダルエスサラームの場合～

子どもが安全で自立した生活をできるように保健教育 や就業支援に力を入れて

皆さまのご支援のもと、プラン・スポンサーシップの活動が地域にどのような効果をもたらしているのかをリポート。ひとつの地域にさまざまなプロジェクトを同時に進行させ、多方面から地域が抱える問題にアプローチすることで、迅速かつ確実な解決を目指します。第3回は、アフリカのタンザニアの様子をお伝えします。

タンザニア・ダルエスサラームはこんなところ

東アフリカに位置するタンザニア。雨量に頼る昔ながらの農法のために農作物の収穫量が不安定なことや、特に農村部で幼い子どもたちの衛生環境が整っていないなどの問題を抱えます。ダルエスサラームはタンザニア最大の都市で経済の中心ですが、政府による保健、教育、水道、電力、道路などのサービスがまだ不十分です。プラン・インターナショナルは1991年に支援を開始しました。



20歳のレジーナは、家が貧しく、7歳までしか学校に通えませんでした。「プランが若者を対象に職業技能支援をしていると聞いて、私はそのチャンスを生かし、今は現金収入を得られるようになりました」

子どもたちの95%が
予防接種を受けられるように

Project 1 妊婦と子どもたちの健康管理を支援

コミュニティ保健ボランティアと保健所の保健職員を対象に、妊婦が健康に安全な出産を迎えるための研修を行いました。その結果、出産時に死亡する妊婦の数が大幅に減りました。また、衛生教育も積極的に行い、子どもたちの95%が予防接種を受けるようになりました。さらに、妊婦と新生児の健康管理を目的とした診療所を整備し、HIVとエイズ予防・治療プログラムを実施。HIV陽性患者が抗レトロウィルス剤による治療を受けられるようにしたり、90人のピア・エデュケーター※1に研修を行い、彼らが得た知識をコミュニティに広めたりすることができました。この活動により、HIV検査やカウンセリングを必要とする918人を支援することが可能に。また、400人以上のエイズ孤児に対して奨学金支援を行いました。



保健所は、妊婦や乳幼児の健康改善に大きく貢献したことにより、タンザニア政府とアメリカ政府から優秀賞を授与されました

※1　ピア・エデュケーター　学びの友。子どもの権利や保健に関する知識など、さまざまなことを学び、同世代の仲間たちへ伝えるべく役目を担う子どもや若者たち

2つの学校と240の
トイレの建設を支援

Project 2 教育環境を整え、教師に研修を実施

2006年に政府が初等学校教育を無償・義務化したことに伴い、この地域の学校は教室が子どもたちであふれていました。平均で1つの机を14人、1つのトイレを100人、1つの教室を300人の生徒が使うという状況で、とても勉強に集中できる環境ではありませんでした。そのため、プランは2つの学校と240のトイレを作り、さらに本や備品を支給して教育環境を整える支援を行いました。

また、513人の小学校教師を対象に、新しいカリキュラムや生活技能、担当教科についての最新情報などに関する研修を実施。15の保育所・幼稚園の委員会に対しては学校運営に関する研修を行い、保育園から小学校まで教育の質を高めることに努めました。



学校に設置されたトイレ。入口の壁には、「トイレのあとは手を洗う」「水は煮沸して飲む」など、保健教育の絵が描かれています

9万7,000人の
子どもたちに
ビタミンAのサプリメントを支給

Project 3 飲み水やサプリメントで健康な生活を応援



ビタミンのサプリメントを支給するほか、定期的に体重を計測するなどして、子どもの健康管理を行っています

親が子どもに清潔で安全な飲み水を与えられるよう、地方政府の保健担当職員やコミュニティの住民を対象とした親業のスキルを高める能力開発の取り組みを行いました。水道も整備し、約3,400世帯が安全な飲み水を入手できるようにしました。

また、市議会による「ビタミンA摂取キャンペーン」の実施を支援。栄養不足や体調不良に苦しむ9万7,000人の子どもたちに、ビタミンAのサプリメントを支給しました。さらに、30人の地元の石工に研修を行うとともに、彼らが便座など衛生用具を製作するための衛生センターを3つ設立。石工は自分たちが作った衛生用具をコミュニティに普及させ、それはコミュニティの衛生状態の向上につながっています。

1,321人の若者に
就業技能を身につける機会を提供

Project 4 金融教育や就業支援を通して生活向上を

コミュニティの住民が金融サービスに関する知識を身につけ利用できるようにするために、支援を行いました。成人の貯蓄グループが42グループ結成され、そのメンバーである1,223人は、これまでに13万9,508米ドル（約1,576万4,404円※2）を貯蓄しました。

また、若者の雇用問題に対処するため、家が貧しく職業技能を身につける機会がなかった1,321人（男性602人、女性719人）の若者に対して、奨学金を支給。基礎雇用可能性技能研修に参加した彼らは、自らの技能を生かして、正社員として雇用されたり、もしくは事業を立ち上げたりすることができるようになりました。

ダルエスサラームのコミュニティの状況は、これらの支援の結果、保健や教育、生活向上などさまざまな面で改善がみられます。今後は、タンザニアのさらに厳しい状況の地域へ、支援を移動、あるいは広げていく予定です。





（上）「夫に虐待されてつらい日々が続いていました。職業訓練を受けることにより、自分でお店を開いて経済的に自立できるようになりました」と話す、27歳のアミーナさん　（下）自動車研修で実習を行っている若者。その他、コンピューター操作技能や顧客サービス、販売・マーケティング、自動車およびオートバイの運転などの研修コースがあります

※2　1ドルは約113円（2017年2月22日）

プラン・マンスリー・サポーター、プラン一般プロジェクト、緊急支援などの取り組み

活動の成果が目に見える形になってきました

困難な状況の中にあっても、男の子と女の子がともに参加できる活動を推進中です。



文房具などの学用品セットを受け取るシリア人の子どもたち

公立学校で学べるように奨学金と学用品を支給

エジプト
「シリア難民の子どもたちに教育と衛生的な環境を」

エジプトで暮らすシリア難民の子どもたちの多くは学校に通っていません。そこで難民を受け入れている８つのコミュニティの小学校で、衛生環境の改善と、難民の子どもたちへの奨学金支給を行っています。これまでに、シリア難民の子ども350人に対して、授業料や補習授業料、学校までの交通費の支給をはじめ、文房具や水筒や制服、副教材の支給なども予定しています。子どもたちは隔週に２日、算数、英語、アラビア語の補習授業に参加し、学習進度の遅れを取り戻す努力をしています。

参加者の声



ダラルさん、ガザルさん
（公立の小学校に通う女の子）

「非公式学校に通っていましたが、エジプトの公立学校に転入しました。このプロジェクトのおかげで、成績がよくなる気がします。そうなれば学校をもっと好きになると思います」

このページで紹介しているプロジェクトは、
プラン・マンスリー・サポーターで
ご支援いただけます。
https://www.plan-international.jp/join/monthly/ をご覧ください。
ご寄付の増額も受け付けています。
ぜひご検討ください。

プラン・マンスリー・サポーター

子どもたちが安全に学べる環境を整えています



プロジェクトを通じて学んだ防災の知識を、ゲームをしながら確認



防災トレーニングで使用した教材

女の子の積極的な参加を促しながら進行中！

中国
「災害に強い学校」世界プログラム

プラン職員の声
曽我建太職員（プログラム部）

2016年11月に中国・雲南省の対象校を視察しました。倒壊の危険がある学校施設の改修状況を確認し、学校の防災計画についてヒアリングしました。人前で発言することに慣れていない女の子へ、積極的に防災活動に参加することを促すなどジェンダー視点にも配慮し、子どもたちが安全な環境で勉強できるようプロジェクトを進めていきます。

一般プロジェクト

地域住民の協力のもと、着々と計画が進んでいます

このページで紹介しているプロジェクトは、
プラン一般プロジェクトでご支援いただけます。
https://www.plan-international.jp/join/priority/ をご覧ください。



母親学級で積極的に質問する母親たち

母親への栄養指導をはじめ、総合的な取り組みを展開

インド
「子どもの栄養状態改善プロジェクト」

乳幼児保育施設への給食や乳幼児への微量栄養素支給のほか、関係者や住民への研修や意識啓発など総合的に取り組んでいます。料理教室で学んだ栄養食を自宅で実践する母親もいれば、研修後に家庭菜園や家庭トイレを自発的に設置する動きも見られています。

孫娘が治療を受けた村の男性



「栄養指導員の助言に従い、栄養不良治療センターで孫娘に治療を受けさせた経験を村の人にも広めています。また、家庭菜園を設置して栄養価のある食事づくりの一助にしています」

雨季の工事の遅れを住民の協力で挽回中！

ガーナ
「小学校建設プロジェクト」

プロジェクト対象の２コミュニティに、監督責任を担うプロジェクト委員会（7人で構成、うち女性2人）をそれぞれ組織しました。雨季のため、着工が３カ月ほど遅れましたが、遅れを取り戻すために、地域住民が積極的に土砂の採取や運搬作業などに協力しています。

プロジェクト委員会のメンバー

「これまで長い間、行政に新しい校舎の建設を訴えてきましたが、“検討します”という回答をもらうだけでした。ようやく子どもたちの希望を叶えることができます。このプロジェクトに心から感謝しています」



地域の女性たちも建設を手伝いました



参加者の声

建設工事の様子



トイレが続々と完成！石鹸の手洗いが習慣に

バングラデシュ
「学校における水と衛生プロジェクト」

予定どおりにトイレと給水設備の建設が進んでいます。エンジニアが対象24校を訪問し、それぞれの要望に合わせた設計図を作成。学校により建設工事の進捗も異なりますが、すでに完成した学校では、利用が始まっています。10月15日の「世界手洗いの日」に、全24校でイベントを実施。子どもたちは、手洗いを通した感染症予防の大切さを学びました。

参加者の声



ラシドゥルさん
（バシュドゥホ小学校5年生）

「今までは学校の外で排泄していましたが、新しいトイレと手洗い場のおかげで、わざわざ外に行かなくてもよくなりました。きれいに使って長持ちさせたいと思います。手洗い場のおかげで石鹸で手を洗えるようになりました」

緊急支援報告

災害の備えを安心のひとつに



両併小学校で防災用品を子どもたちへ手渡す番場職員（左奥）

防災用品で子どもたちを支援

熊本地震緊急支援 注）

プランは熊本県南阿蘇村教育委員会と連携し、村内すべての小中学校（小学校5校と中学校1校）へ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、防災用品の支援を行いました。防災ずきん（282個）と防災用ヘルメット（40個）、マスク・救急用品・小型ラジオ・小型ライト・乾電池などが入った非常時用の持ち出しセット（35個）です。学校で定期的に行っている避難訓練などでも活用し、地震や噴火など、いざというときに備えることができるようにします。

注）熊本地震緊急支援は、2016年6月30日で募集を終了しました

叔母の遺志で完成した小学校 落成式に参加して胸が一杯に

約40年前に創業した教育関係の会社を、子どものように立派に育て上げた重森夫妻。
その姪である東久三子さんは、叔母の千恵さんから受け継いだ相続財産を
プラン特別プロジェクトに寄付し、ベトナム北部山岳地帯の小学校に新校舎が完成しました。



落成式に参加した東久三子さん（左から３人目）と、千恵さんの従妹の小谷佳子さん（右隣）

写真の中の叔母たちも新校舎の完成を喜んでいるようでした

宿泊先のベトナム・ハザン省の中心部を離れ、急な凸凹坂を激しく揺られながら30分あまり進むと、新しく出来上がった緑色の屋根の校舎と、かわいい子どもたちが私たちを迎えてくれました。私は叔母の思いが叶えられたことへの感動で、胸が一杯になりました。

10年前に亡くなった叔父は、会社を経営しながら60歳で大学院を卒業したという努力の人でした。日頃から教育の大切さを説き、学ぶことが困難な子どもたちを支援したいという遺言を残しました。そのときはほかの法人で、途上国の子どもの教育支援に寄付をしました。

叔父と同じ思いをもつ叔母が2年前に亡くなり、同様の支援を検討しました。娘が見つけたプラン・インターナショナルの資料を見て問い合わせると、特別プロジェクトのご提案が。叔父のときは礼状が来ただけでしたが、プランは報告書や訪問することで支援の結果を確認できるので選ばせていただきました。

落成式では子どもたち、先生方、コミュニティの役員の方々、プランのスタッフの方々全員と一緒に校舎の完成をお祝いすることができ、とても幸せなひとときでした。日本から持参した写真の中の叔父と叔母も喜んでいるように見えました。

しかし一方で、短い滞在中でも現地の子どもたちの困難を見て、悲しい気持ちにもなりました。たとえば給水設備が行き渡らず不衛生な環境、雨が降るたびにぬかるんで通学に苦労する道など。だからこそプランの継続した支援活動が必要とされているのだと改めて気づかされます。

もし事情が許せば、今回同行できなかった娘や孫たちと一緒に再訪して、子どもたちの笑顔にまた会いたいと思います。この特別プロジェクトにかかわってくださったすべての皆さま、ありがとうございました。


清潔で安全になった教室で学ぶ子どもたち


（左）新校舎建設の記念プレート。右上には重森夫妻の会社のロゴが （右）教育の大切さを説き続けた故・重森千恵さん

重森千恵さんの相続財産で実施したプラン特別プロジェクト

ベトナムにおける学校建設プロジェクト

実施期間：2015 年 12 月～2016 年 11 月

倒壊の危険があった旧校舎を撤去し、3 教室の新校舎、手洗い所および男女別のトイレを建設。教室備品（机、いす、黒板、本棚など）を支給しました。周辺道路が雨季による大雨で損傷するというトラブルにも見舞われましたが、コミュニティ住民が協力して道路の修復作業を行い、10月には建設工事がすべて完了。


支援で建てられた小学校の新校舎

※相続税の優遇措置も受けられます
故人ご逝去後 10 カ月以内に、プラン・インターナショナル発行の寄付証明書と内閣府発行の公益法人証明書を税務署へ提出すると、相続財産のうちのご寄付分について控除を受けられます。詳細は税理士・税務署にご相談ください。

プラン特別プロジェクトの特徴

- ひとつのプロジェクトを、ひとりもしくは複数の個人や企業で「丸ごと」支援していただけます
- 支援者のご要望と活動国のニーズをすり合わせ、プロジェクトの内容を一緒に作り上げます
- 個別の提案書と報告書を支援者に送付します
- プロジェクトの成果物に、支援者の名前入り記念プレートを設置します
- プロジェクトの完了に合わせ、落成式などの記念イベントにご参加いただけます
（渡航にかかわる実費は、支援者のご負担となります）

● プラン特別プロジェクトにご関心のある方、お気軽にお問い合わせください
連絡先・ファンドレイジング部 TEL: 03-5481-7100 ／ Mail: hello @ plan-international.jp

現地報告 ラオス　中等教育におけるジェンダー平等を目指すプロジェクト

政府パートナーと密接に協力しながら活動しています

長島千野職員（現地プロジェクトマネジャー） From Laos


陽気なチームメンバーとともに（前列中央）

中等教育におけるジェンダー平等を目指すプロジェクトのマネジャーとして、2016年12月にラオス北部、ボケオ県ホワサイ郡の地域事務所へ赴任しました。外国人は私ひとり。事務所の裏には壮大な山々が見渡せ、ヤギがときどき草を食べに来るというのんびりした環境で、現地スタッフたちとともに仕事をしています。


プロジェクト対象校で関係者と打ち合わせ

私はこれまでにカンボジア、ケニア、インドネシアで働いた経験があるのですが、ラオスで仕事を始めて驚いたのは、現地政府のプロジェクトへの関与度が非常に高いことです。ラオスは、一党支配の人民民主共和制という政治体制の国。活動はすべて政府パートナーと一緒に行い、プロジェクト対象地を訪問するときは政府職員が必ず同行します。最初は「それだけ規制・監視されているのか」と思いましたが、実際にはパートナーである郡教育局の職員の方たちはとてもほのぼのしていて、プランの職員とも仲がよく、規制・監視のイメージとはほど遠いものでした。

政府が好まない活動はできないという欠点もありますが、一緒に活動することで、政府パートナーがNGOの理念や手法について自然と影響を受け、活動の持続性が高まっていくことを期待しています。

業務報告 支援者サポート部

「プランと話そう in ○○」～次はあなたの街におじゃまするかも!?

「プランと話そう」実施チーム From Tokyo


「プランと話そう」実施チームメンバー

全国各地の支援者の皆さまと親睦を図りながら、プランの活動への理解を深めていただく試み「プランと話そう」は、2015年のスタート以来、熊本、金沢、神戸など計7都市で、約200人の皆さまとお会いしてきました。開催場所は支援者の会がなく、支援者数が多い自治体を中心に検討しますが、土地勘がなく会場の選択に迷うこともしばしば。時に地元の支援者の方からアドバイスをいただきながら、日曜開催、駐車場重視など、ノウハウも蓄積されつつあります。

プランの活動報告に始まり、グループトークで終わる形式ですが、終了時間を過ぎても質問などで盛り上がるのが常。参加者からの「支援を続けたい」「こんな機会を待っていた」という声に、確かな手応えを感じています！



セッションに参加するユース（左から２人目）

WAW! 2016　スペシャル・セッション
「ユース・テーブル：若者が作りたいジェンダー平等社会とは～現状と課題～」に参加

2016年12月14日（水）、日本政府主催の国際女性会議「WAW! 2016」のスペシャル・セッションにおいて、プラン・インターナショナルは企画・運営を担当。ユース・グループのG-SChooLメンバーを含む、ユースの代表6人とともに登壇しました。セッションでは、ジェンダー平等に向けたそれぞれの取り組みを紹介し、ユースが考えるジェンダー平等社会とは何か、ユースの意見を社会づくりにどう反映できるかについて話し合いました。今後もプランはユースとの連携を強化し、ジェンダー平等の実現に向けた取り組みを進めていきます。

「夏休み読書感想文コンクール2016 私を動かす、この一冊。」表彰式報告


角田光代審査員長（中央）と入賞者の皆さん

1,935人の応募者の中から、計6人の入賞者が決定。「世界子どもの日」の2016年11月20日（日）に、国際連合広報センターとの共催で表彰式イベントが行われました。当日は入賞者と入賞校の表彰、入賞作品の朗読や審査員長の角田光代さんからの講評などが行われました。

●入賞おめでとうございます！

［最優秀賞］　武田美由紀さん（中学2年）／水野茉梨香さん（高校2年）　［優秀賞］　野口美沙さん（中学2年）／藤澤息吹さん（高校1年）　［特別賞］　井上夏希さん（中学2年）／深見亮太さん（高校3年）　［学校賞］　大妻中野中学校・高等学校／関西大倉中学校／関西創価中学校／広島女学院中学高等学校／弥富市立弥富北中学校／宮城学院中学校・高等学校／豊島岡女子学園中学校・高等学校

※入賞作品と講評、学校賞コメントは、下記のウェブサイトでご紹介しています。

https://www.plan-international.jp/news/info/20161124_1884

※これまでの入賞作品と講評を紹介した作品集が冊子になりました。ご希望の方は、下記までメールでお申し込みください。

【冊子お申し込み・お問い合わせ先】

Mail：education@plan-international.jp

あなたも参加しませんか？ プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

プラン千葉 W

第16回 春の例会

- 日時：4月9日（日）　13:00 ～ 16:00
- 会場：千葉市民会館　会議室（千葉市中央区要町1-1　JR千葉駅から徒歩7分）
- 内容：チャイルドへの手紙書き、ほか
- 参加費：プラン千葉の会員は無料、非会員はひとり500円
- 定員：先着30人

※参加ご希望の方は、4月7日（金）までに下記へご連絡ください

- 連絡先：前田

Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

プラン広島の会 f

お手紙書き会

- 日時：4月15日（土）、5月20日（土）、6月17日（土）、7月15日（土）14:00 ～16:00
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ3Fまたは2Fフリースペース（広島市中区袋町6-36）
- 内容：チャイルドへの手紙書き
- 参加費：無料、事前申込不要
- 連絡先：小村

Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

山形・秋田プランの会

第27回 山形・秋田プランの会

- 日時：4月16日（日）13:00 ～ 16:30
- 会場：にかほ市 象潟公民館　視聴覚室（予定）
- 内容：プラン職員の講演、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
- 参加費：500円。4月12日（水）までに下記へお申し込みください
- 連絡・申込先：岩谷

Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

プラン札幌の会

プラン札幌の会　総会

- 日時：5月20日（土）　13:00 ～ 16:00
- 会場：かでる2・7　920会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）
- 内容：活動計画、ほか詳細未定
- 参加費：年会費1,000円
- 申込：不要(直接会場へお越しください)

※プラン札幌の会会員登録済の方へは別途ご案内します

- 連絡先：西崎

TEL：080-4500-0525（ショートメールを送るか、留守電にメッセージを残してください）

プラン山陰の会 f

プラン山陰の会

- 日時:5月28日（日）　10:00 ～ 12:00（終了後に昼食会あり）
- 会場：松江市市民活動センター研修室（松江市スティックビル）
- 内容：プログラム部の馬野職員が支援活動の様子を講演します。どうぞお集まりください。昼食会も楽しみましょう
- 参加費：500円（中学生以下300円）

※事前申込は不要ですが、昼食会に参加希望の方は、予約の都合上、5月25日（木）までに下記にご連絡ください

- 申込先：プラン山陰の会

Mail：leafmoon804@yahoo.co.jp

FAX：0858-72-1887

プラン岡山の会 W f

第12回 プラン岡山の会

- 日時：5月28日（日）　13:00 ～ 16:00
- 場所：岡山県生涯学習センターミーティング室5　http://www.pal.pref.okayama.jp/
- 内容：ベトナムのプロジェクトを担当されたプラン職員からお話をうかがいます
- 参加費：300円（1家族につき）※事前申込は不要ですが、お知らせいただけると助かります
- 連絡先：プラン岡山の会 お世話人会

Mail：planokayama@excite.co.jp

プラン群馬の会

映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』上映会

- 日時：6月18日（日）　13:30 ～ 16:00
- 場所：土屋文明記念文学館 2F 第3研修室
- 内容：映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』を上映します。映画を観て途上国の女の子の現状を一緒に考えませんか？
- 参加費：500円　※参加ご希望の方は、下記へご連絡ください。
- 連絡・申込先：星野

Mail：kaoru_hoshino@hotmail.com

W ウェブサイト f フェイスブック

上記アイコンのある会については、プラン・インターナショナルのウェブサイトから各会のページにリンクできます（https://www.plan-international.jp/supporter/plankai/）

支援者の会に関するお問い合わせ先：

支援者サポート部　TEL：03-5481-6100

※「プラン・ニュース」No. 105は、7月上旬にお届け予定です

「やくみつるさんトークショー ～中南米秘境旅行記！ ホンジュラスの息子との絆～」開催決定！


以前交流していたチャイルドのホアンくん（当時11歳）とともに

長年、プラン・インターナショナルのスポンサーとして、中米ホンジュラスのチャイルドと交流してこられたタレントのやくみつるさんをゲストにお迎えし、チャイルドとの手紙での交流や、コミュニティ訪問をした際の心温まるエピソードなどをお話しいただきます。ぜひご参加ください。

【日時】

6月1日（木）19：00 ～ 21：00

【会場】

セルバンテス文化センター東京（市ヶ谷）

※申込開始時期は5月上旬を予定しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

https：//www.plan-international.jp

「記念日寄付」で女の子たちに幸せをおすそ分けしませんか？



ご寄付くださった方には記念日お祝いカードをお届けします

誕生日や結婚、出産、子どもの成長など、「記念日」を迎えた皆さまの幸せを、途上国の女の子たちに「寄付」という形でおすそ分けしませんか？ あなたのご支援が、ルワンダ、トーゴ、ネパールの女の子たちの未来をあと押しします。ご寄付くださった方には、プラン・インターナショナルより「記念日お祝いカード」をお届けします。お申し込みお待ちしています。

【参加方法】

■クレジットカード決済

お電話（下記参照）でお申し込みいただくか、下記QRコードよりプランのウェブサイトをご覧ください

■郵便局での振込

本号同封の振込用紙「記念日寄付」欄にチェックし、郵便局の窓口で振込をしてください（窓口で手続きすると手数料が免除になります）

【受付期間】

■クレジットカード決済：5月31日（水）手続き分まで

■郵便局での振込：6月30日（金）手続き分まで

【お問い合わせ先】

支援者サポート部　寄付金管理担当

TEL：03-5481-6100（受付時間：平日9：00 ～ 17:30）Mail：service@plan-international.jp

「世界一大きな授業2017」にご参加ください！

現在、世界で小学校に通えない子どもは約6,100万人、読み書きができない大人は約7億5,800万人もいます。「世界一大きな授業」は、世界の教育の現状を世界中で同じ時期に学び、教育の大切さについて考える世界規模のイベントです。2016年には日本の764校・グループの5万6,234人が参加しました。今年は10万人参加が目標です。学校に通えない子どもたちの現状を知り、日本の私たちにできることを考えてみませんか？

【キャンペーン期間】

4月15日（土）～ 5月31日（水）

【参加方法】

共通の教材を使って45分程度の授業を実施してください

【参加対象】

小・中学校、高校、大学、企業、個人での参加も可能

【お申し込み・お問い合わせ】

「世界一大きな授業」事務局（プラン・インターナショナル内）

TEL：03-5481-0030（受付時間：平日9：00 ～ 17：30）

Mail：gce.japan.campaign@gmail.com

ウェブサイト：http://www.jnne.org/gce/

「東京ヤマソン」に出場者またはボランティアとして参加しませんか？

東京ヤマソンは、3人または4人一組のチームでJR山手線の一周29駅全駅を歩いて回るファンドレイジングのイベントです。主催はインターナショナル・ボランティア・グループ。参加費の全額、およびクラウドファンディングサイト「Japan Giving」を通して集められた資金は、プラン・インターナショナルに寄付され、スリランカの子どもたちにコンピューター教室を贈るために使用されます。参加方法は以下の3つ。

①出場者として参加する ②会場で数時間ボランティアとして参加する ③クラウドファンディングサイト「Japan Giving」で寄付する

【開催日】

5月13日（土）

【場所（スタート地点）】

TOKIAビル（JR東京駅・丸の内南口出口から徒歩3分）

【参加費】

1チームにつき1万円

【参加条件】

参加費に加え、各チームで「Japan Giving」サイトで1万円以上を集めること

【詳細・お申し込み先】

https://www.plan-international.jp/yamathon2017/

【お問い合わせ先】

ファンドレイジング部

TEL：0120-400-422（受付時間：平日9：00 ～ 17：30）


昨年度は約300チーム、1,100人が参加しました

コミュニティ訪問に行ってきました！

インドネシア共和国 **INDONESIA**

チャイルドやコミュニティの子どもたちと思いっきり遊んできました！



スポンサー：鈴木美沙さん／静岡県
チャイルド：グレゴリウスさん（ロキ）
（男の子／訪問時8歳）

大学時代に、長期休みを利用してバリ島の孤児院で日本語を教えるというサークルに所属していた鈴木美沙さん。その活動を通じて大好きになったインドネシアに対して、卒業後も継続的に支援できる方法を模索していたときにプラン・ジャパン（当時）と出会い、現地のチャイルドとの交流が始まりました。

グレゴリウスさん（ニックネームはロキ）との交流が始まったのは、2015年1月。ロキが7歳のときでした。なるべく早く会いに行き、どんな子どもなのか、どんな暮らしをしているのかを直接自分の目で確かめたいと思っていました。そこで、勤務先の上司にお願いして、何とか5連休を確保。2016年6月15日(水)に日本を出発しました。

初日は、名古屋から韓国を経由してバリ島のデンパサールへ。そこで1泊し、翌日の昼過ぎにティモール島のクパンに到着しました。迎えに来てくださったプランのスタッフと一緒にソエの活動地域事務所へ向かい、見学させていただきました。その後、ロキの住むケファへ。

そして、待ちに待ったコミュニティ訪問当日！ まず、ケファの事務所で、現地で進行中の活動内容について説明を受けました。その後「子どもたちとの交流に多くの時間をとってほしい」という私の希望をくんでいただき、9時半頃にはロキの通う小学校に到着しました。学校では、子どもたちと先生方が出迎えてくれて、ロキと初めて対面することができました。彼は、すぐに友だちの陰へ隠れてしまう、とてもシャイな男の子でした。日本から持参したフリスビーや長縄でみんなと2時間ほど遊んでから、ロキの家がある村へと移動しました（使用した玩具はこれからも休み時間などに使ってもらえるよう、学校にプレゼントしました♪）。

村の手前で住民の方々の大歓迎を受け、美しい民族衣装とスカーフをいただきました。長老のスピーチやランチタイムをはさみ、午後4時過ぎに帰路につくまで、歌や踊り、シャボン玉などでただただ遊ぶのみ。おやつに配ったキャンディーは、すぐになくなってしまうほど大人気でした。ロキもようやく気持ちがほぐれてきたようで、とてもかわいい笑顔を見せてくれました。

最後に、子どもたちにノートと鉛筆をプレゼントし、写真の大撮影会をして終了。ロキにまた必ず会いに来ると心に誓いながら、村をあとにしました。

事務所に戻ってからは、スタッフの皆さんとおしゃべりをしたり、簡単な日本語教室を開いたり、一緒に夕食をとったり。スタッフの中には、元チャイルドという方もいて、貴重なお話も聞くことができました。最初から最後まで、ずっと温かい気持ちが溢れるコミュニティ訪問でした。



1



2



3

1：子どもたちは初めての長縄跳びで大盛り上がり！
2：ロキや村のみんなと一緒にダンス！
3：素敵な民族衣装を着せてくれました

旅のスケジュール

2016年	6/15	中部国際空港～ソウル（韓国）経由～デンパサール（移動時間：約13時間）
	6/16	デンパサール～クパン（飛行機で約2時間）～ソエ（車で約2時間）～ケファ（車で約3時間）
	6/17	コミュニティ訪問
	6/18	ケファ～クパン（車で約5時間半）～デンパサール（飛行機で約2時間）※夜までバリ島観光
	6/19	デンパサール～ソウル経由～中部国際空港

● コミュニティ訪問は、出発日の8週間前までにお申し込みください。 手続き方法などの詳細は、ウェブサイトでご覧いただけます→ http://www.plan-international.jp/supporter/visit

PLAN NEWS
2017 SPRING NO.104

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：ウガンダの女の子